

2017年度(平成30年3月期) 第2四半期決算説明資料

IHI

2017年11月1日

株式会社 IHI



目次

1. 2017年度第2四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
連結キャッシュ・フロー計算書.....	11
補足資料.....	12

2. 2017年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	14
報告セグメント別内訳.....	15

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>	27
--------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2017年度第2四半期 連結決算

1. 2017年度第2四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2017年度2Q 売上平均レート(米ドル) 111.14円

(億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q	増 減
受 注 高	6,402	7,151	748
売 上 高	6,917	7,734	816
営 業 利 益	119	346	226
経 常 利 益	50	195	144
税金等調整前 四半期純利益	50	182	131
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 52	68	121

2016年度と同様に、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、第2四半期連結累計期間においては、該当する海外連結子会社の会計期間が9か月となっています。この影響により、売上高で579億円(前期252億円)、営業利益で14億円(前期27億円)がそれぞれ増加しています。

1. 2017年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'16年度2Q	'17年度2Q	増減	'16年度末	'17年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,763	2,074	311	7,523	7,089	▲ 434
社会基盤・海洋	736	675	▲ 61	1,961	1,943	▲ 18
産業システム・汎用機械	2,114	2,463	348	1,484	1,582	98
航空・宇宙・防衛	1,671	1,811	140	5,110	4,855	▲ 255
報告セグメント計	6,285	7,024	738	16,080	15,471	▲ 609
その他	342	384	41	172	241	68
調整額	▲ 225	▲ 257	▲ 31	-	-	-
合計	6,402	7,151	748	16,253	15,712	▲ 540

海外受注高・受注残高	2,997	4,118	1,120	5,912	5,697	▲ 215
海外受注高・受注残高比率	47%	58%	11%	36%	36%	0%

1. 2017年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'16年度2Q	'17年度2Q	増減	'16年度2Q	'17年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,085	2,539	454	▲ 68	▲ 50	17
社会基盤・海洋	666	666	0	▲ 199	56	255
産業システム・汎用機械	2,029	2,271	241	79	74	▲ 4
航空・宇宙・防衛	2,059	2,154	95	315	295	▲ 19
報告セグメント計	6,841	7,632	791	126	375	248
その他	322	301	▲ 21	4	▲ 2	▲ 7
調整額	▲ 245	▲ 198	47	▲ 11	▲ 26	▲ 15
合計	6,917	7,734	816	119	346	226

一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2017年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	22	▲ 13	8	7	▲ 7	17
社会基盤・海洋		255	4	▲ 4		255
産業システム・汎用機械	18	▲ 14		▲ 4	▲ 4	▲ 4
航空・宇宙・防衛	10	▲ 25	15	▲ 19		▲ 19
報告セグメント計	50	203	27	▲ 20	▲ 11	248
その他	▲ 2	▲ 2		▲ 1	▲ 2	▲ 7
調整額		▲ 21		6		▲ 15
合計	48	180	27	▲ 15	▲ 13	226

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

北米 プロセスプラント案件の採算悪化について

〈採算悪化要因〉

- 当初見積時から物量増が生じ、調達費や建設費が増加した。
- 物量増によって工程遅れが生じ、建設計画全体の見直しが必要となり、当第2四半期に、工程キャッチアップのための追加コストを計上した。

〈対応策〉

- 工程改善を織り込んだ据付工事計画により、外注管理も含めたきめ細かな進捗管理を実施する。
- 海外現地工事に精通した有識者を投入することで、今後のプロジェクト体制を強化する。

1. 2017年度第2四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(1) 営業外損益

(億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q	増減	備考
金融収支	▲ 3	0	2	
持分法による投資損益	▲ 4	0	3	
為替差損益	▲ 64	3	68	
その他	3	▲ 153	▲ 156	2016年度2Q: 契約納期遅延に係る未払費用の取崩益 +40 2017年度2Q: 民間航空エンジン契約調整負担金 ▲64(※) 契約納期遅延に係る費用 ▲47
営業外損益	▲ 68	▲ 150	▲ 81	

(※) 当社が参画しているエンジンプログラムにおいて、お客様との契約に関連する一時的な費用負担が発生することとなったため、当社のプログラムメンバーとしての負担額を計上したものです。

(2) 特別損益

(億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q	増減	備考
特別利益	—	15	15	2017年度2Q: 事業譲渡益 +15
特別損失	—	▲ 29	▲ 29	2017年度2Q: 商業運転中のボイラ設備に係る和解関連費用 ▲29
特別損益	—	▲ 13	▲ 13	

期末日レートの変動(米ドル) '16年度2Q ▲11.56円(期首112.68円→2Q末101.12円)
'17年度2Q +0.54円(期首112.19円→2Q末112.73円)

1. 2017年度第2四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'16年度末	'17年度2Q末	増減
資産合計	16,928	16,601	▲ 326
(うち 売上債権)	(4,030)	(3,736)	(▲ 294)
(うち 棚卸資産)	(4,172)	(4,532)	(359)
負債合計	13,552	13,120	▲ 431
(うち 仕入債務)	(2,859)	(2,924)	(65)
(うち 前受金)	(2,089)	(1,975)	(▲ 113)
(うち 有利子負債残高)	(3,719)	(3,356)	(▲ 362)
純資産合計	3,376	3,481	104
株主資本	3,099	3,164	64
その他の包括利益累計額	81	113	31
負債・純資産合計	16,928	16,601	▲ 326
D/Eレシオ (※)	1.10倍	0.96倍	▲ 0.14倍
自己資本比率	18.8%	19.7%	1.0%

有利子負債残高には、リース債務残高(2016年度末:203億円, 2017年度2Q末:185億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

1. 2017年度第2四半期 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q	増減
営業キャッシュ・フロー	423	431	8
投資キャッシュ・フロー	▲ 304	▲ 46	257
フリー・キャッシュ・フロー	118	384	265
財務キャッシュ・フロー	▲ 303	▲ 401	▲ 97

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q
研究開発費	146	150
設備投資額	239	205
減価償却費	224	219

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(2) 海外売上高 (億円)

	'16年度2Q	'17年度2Q
アジア	950	807
中国	372	566
北米	1,545	2,028
中南米	143	127
欧州	623	751
その他	207	159
合計	3,842	4,440
海外売上高比率	56%	57%

2. 2017年度 連結業績見通し

2. 2017年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
(第3四半期以降) ユーロ **120円**(前回見通し公表時 **120円**)

(億円)

	前回見通し ('17年度通期) A	今回見通し ('17年度通期) B	前期実績 ('16年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	15,000	15,000	13,898	0
売 上 高	15,500	15,500	14,863	0
営 業 利 益	650	650	473	0
経 常 利 益	570	570	220	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	230	52	0

前回見通しは、2017年8月8日公表の業績予想数値です。

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 5億円 ユーロ 0億円

(注) 2016年度から順次、海外連結子会社の決算日について12月末から3月末への変更を進めており、2017年度も一部の海外連結子会社については15カ月間の業績見通しとなっております。

また、2017年度より、当社及び一部の国内連結子会社では、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法へ移行しております。

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)	今回見通し (’17年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	4,600	4,600	0
社会基盤・海洋	1,500	1,500	0
産業システム・汎用機械	4,500	4,500	0
航空・宇宙・防衛	4,100	4,400	300
報告セグメント計	14,700	15,000	300
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 400	▲ 700	▲ 300
合 計	15,000	15,000	0

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)		今回見通し (’17年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	5,300	160	5,000	50	▲ 300	▲ 110
社会基盤・海洋	1,600	90	1,600	110	0	20
産業システム・汎用機械	4,400	130	4,400	150	0	20
航空・宇宙・防衛	4,400	390	4,700	460	300	70
報告セグメント計	15,700	770	15,700	770	0	0
その他	700	20	700	20	0	0
調整額	▲ 900	▲ 140	▲ 900	▲ 140	0	0
合計	15,500	650	15,500	650	0	0

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 20	▲ 90			▲ 110
社会基盤・海洋		20			20
産業システム・汎用機械		20			20
航空・宇宙・防衛	50		20		70
報告セグメント計	30	▲ 50	20	0	0
そ の 他					0
調 整 額					0
合 計	30	▲ 50	20	0	0

3. 報告セグメント別の概況

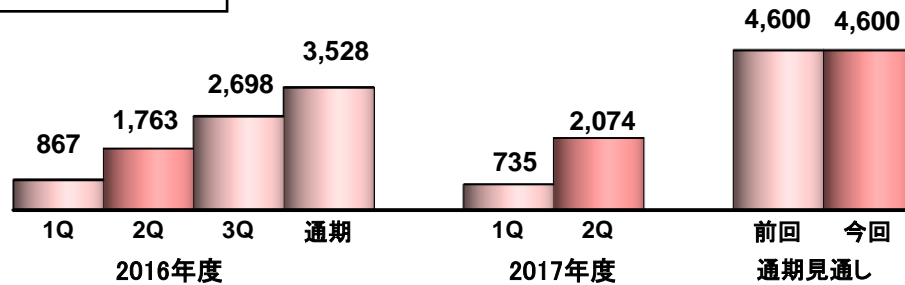
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年8月8日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント,
原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

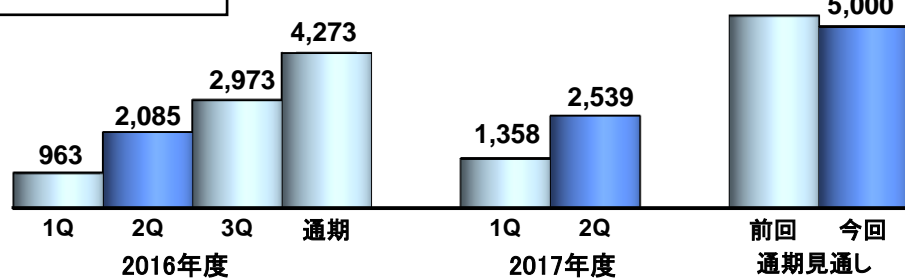
【受注高】

プロセスプラントや原子力で減少したものの、ボイラで増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて大型プロジェクトが進捗したことや、ボイラや原子力、陸船用原動機で増収となりました。

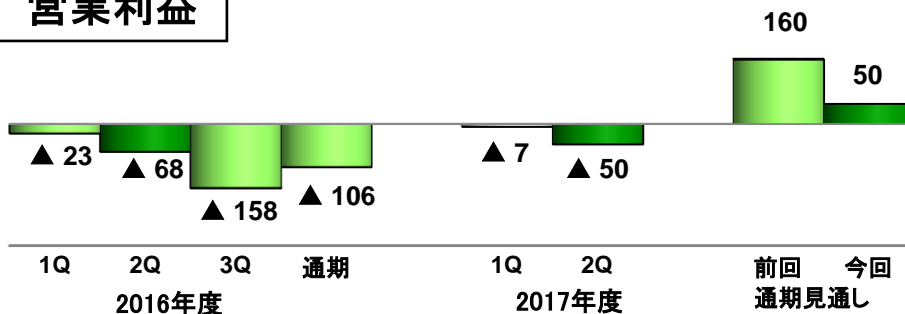
売上高



【営業利益】

北米で遂行中のプロセスプラント案件で追加コストの計上があったものの、ボイラでの採算悪化の解消や上記の増収により、赤字幅が縮小しました。

営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は変更ありません。

売上高・営業利益は、プロセスプラントの一部工事の工程見直しや採算悪化などにより、減収・減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

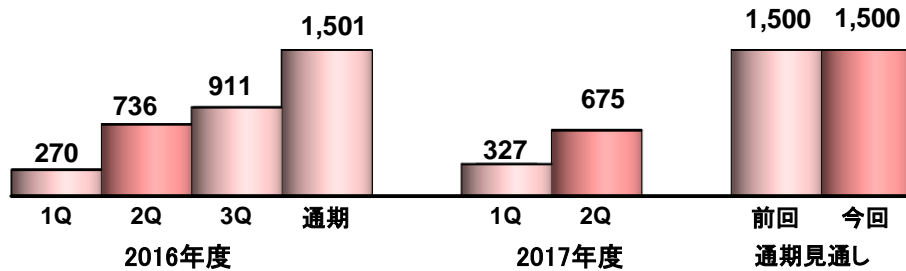
	受注高		売上高						
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
ボ イ ラ	583	1,300	245	609	861	1,120	254	700	1,400
原 動 機 プ ラ ン ト	190	540	58	104	140	189	64	110	340
陸 船 用 原 動 機	611	640	133	264	388	583	145	285	620
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	730	910	215	486	629	943	691	997	1,400
原 子 力	556	270	22	69	127	301	52	103	390

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)
前回: 2017年8月8日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG

受注高



<対前年同期 増減内訳>

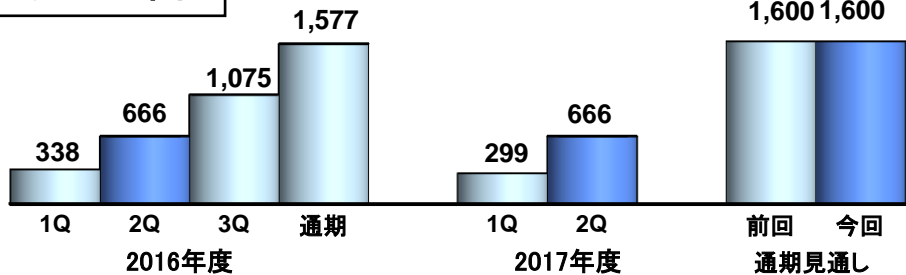
【受注高】

シールドシステムなどで減少しました。

【売上高】

シールドシステムで統合の効果や工事進捗に伴う増収があったものの、橋梁・水門の減収などにより、前年同期と横ばいとなりました。

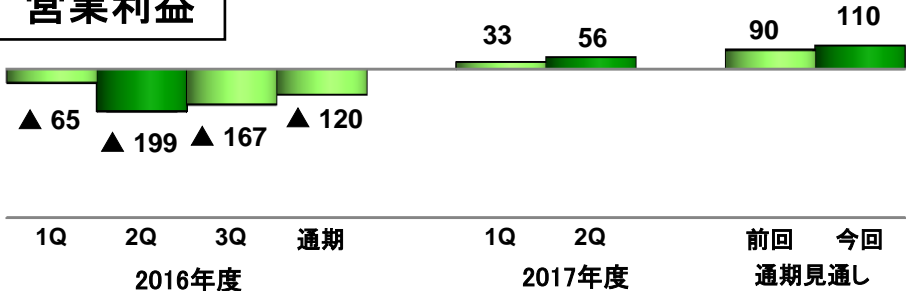
売上高



【営業利益】

前年同期に計上したF-LNGの赤字が解消したことなどにより、営業黒字となりました。

営業利益



<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高は変更ありません。
営業利益については、各事業での採算改善により、増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高						
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
橋 梁 ・ 水 門	710	700	150	306	449	672	128	267	700
F-LNG	▲ 17	▲ 10	80	107	146	184	24	91	120
都 市 開 発	151	170	34	71	106	142	42	89	170

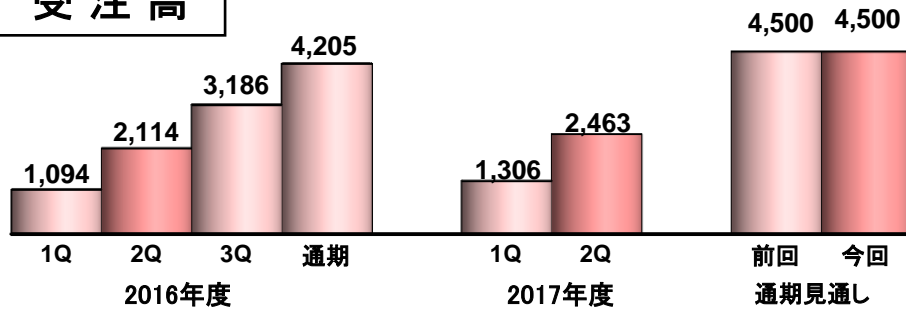
「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P34、P35の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

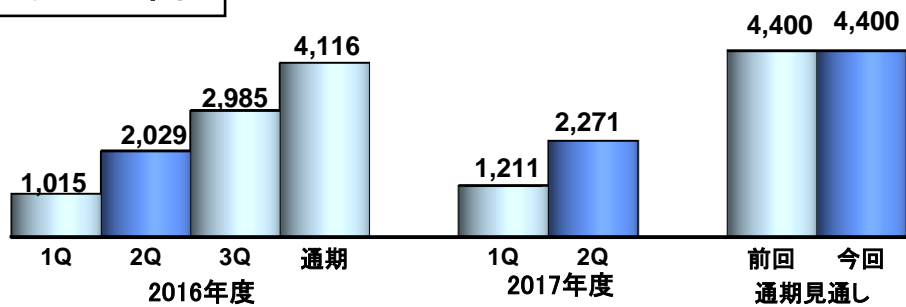
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2017年8月8日公表の業績予想数値

主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機

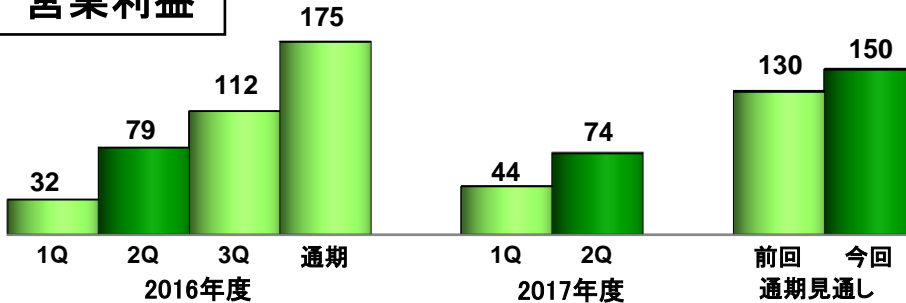
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

建機の事業譲渡による影響はあったものの、車両過給機や熱・表面処理で増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響に加えて、車両過給機の中国向け販売台数が増加したことなどにより、増収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	2Q累計	通期
2016年度	293	610
2017年度	433	770

【営業利益】

上記の増収はあったものの、回転機械の採算悪化などにより、ほぼ横ばいとなりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高は変更ありません。

営業利益については、車両過給機における販売増加や採算改善により、増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高						
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
運搬機械	319	300	54	116	165	234	32	105	280
パーキング	416	480	75	184	296	428	78	171	420
熱・表面処理	352	440	78	156	232	323	132	230	430
車両過給機	1,746	2,000	474	868	1,293	1,746	691	1,179	2,050
回転機械	480	460	103	217	337	482	82	188	450

「車両過給機」の詳細は、P33の<参考資料>をご覧ください。

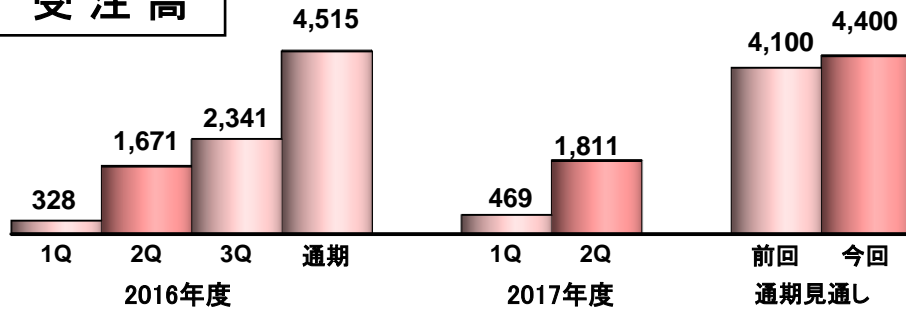
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

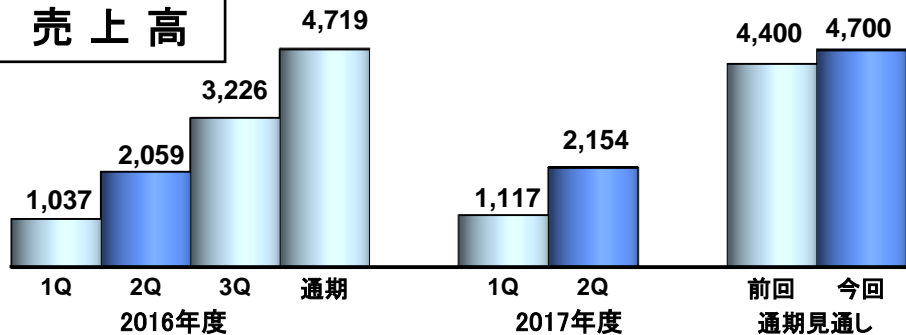
前回: 2017年8月8日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

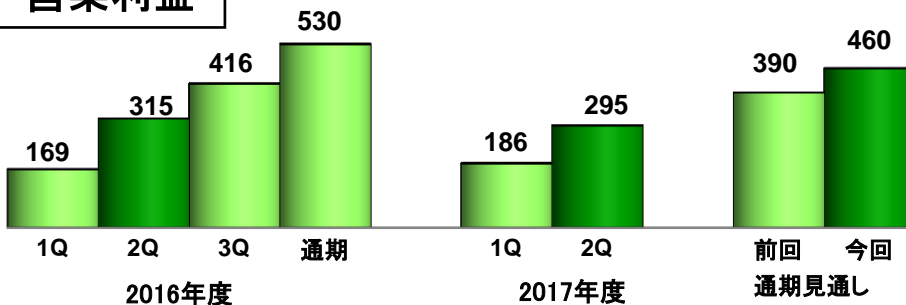
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で増加しました。

【売上高】

民間向け航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	2Q累計	通期
2016年度	641	1,282
2017年度	682	1,350

【営業利益】

民間向け航空エンジンのスペアパーツの増加や為替の好転はあったものの、新型のPW1100Gエンジンの販売増加の影響や販管費の増加などにより、減益となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は、民間向け航空エンジンなどで増加する見通しです。

売上高・営業利益は、民間向け航空エンジンで、スペアパーツの増加及び為替の好転の反映により、増収・増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高						
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,630	3,100	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,900

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第2四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2017年9月現在



液化エタン受入

<進捗状況>

2017年10月末現在で、設計及び機器の発注はほぼ完了し、ガスタービン稼動。プロジェクト全体の進捗率は97%。

<主要工程>

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2017年3月: DCS(プラント制御装置)運転開始
- 2017年4~11月: メカニカル・コンプリーション
- 2017年12月: 運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転及び運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2017年9月末現在

<進捗状況>

2017年9月末現在, 基礎工事継続中。#1ボイラ耐圧部・電気集塵機, #2ボイラ鉄骨を据付中。7月19日#2鉄骨据付開始。ボイラ部分の進捗は設計:約86%, 調達:約62%, 据付:約12%, プロジェクト全体:約53%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

バングラデシュにおける火力発電所及び港湾建設工事を受注

IHIは、住友商事株式会社及び株式会社東芝と3社でコンソーシアムを組成し、バングラデシュの石炭火力発電公社が推進する超々臨界圧石炭火力発電所の建設工事及び港湾建設工事を受注しました。

今回受注した超々臨界圧発電設備は、日本が誇る高効率石炭火力発電設備です。蒸気を超高温・超高压化することで発電効率を高め、燃料の使用量とCO2排出量の抑制を可能とし、環境負荷の低減に貢献します。

本事業は日本の技術・ノウハウを結集したもので、日本政府の推進する「質の高いインフラパートナーシップ」に資する案件です。日本の資金及び技術を活用して、バングラデシュの逼迫する電力需要に応えるとともに、産業振興及び経済発展に貢献していきます。

インドネシア国営電力公社向け 石炭火力発電ボイラを受注

IHIは、伊藤忠商事株式会社からKalselteng-2石炭火力発電所向けボイラの本体機器供給業務を受注しました。

IHIは、国内外において多くの石炭火力発電ボイラを受注・納入しており、幅広い種類の石炭に対応するボイラの設計技術と高度な製作技術、優れた運用実績が評価されたものと考えています。また今回の受注は、昨年受注したロンタール石炭火力発電所向けボイラに続くものとなります。

今後も成長が見込まれるインドネシアをはじめとするグローバル市場において、安定的かつ効率的な電力供給を実現するために、高い発電効率及び優れた環境性能を誇るボイラを中心とした発電機器・システムを提供していきます。



<納入予定地>

ノルウェー向け洋上浮体式原油生産貯蔵積出設備(FPSO)の船体の引き渡し

IHIは、BW Offshore Limited向けに進めていた洋上浮体式原油生産貯蔵積出設備(FPSO)の船体部建造工事を完了し、8月30日に引き渡しました。

FPSOは洋上での原油生産・貯蔵・積出に使用される設備であり、今回の工事では、船体部の建造工事を担当しました。引き渡し後、本FPSOは、英国の石油開発会社Premier Oil plcが用船し、厳しい海象条件で知られる北海で、年内に稼働開始する予定です。



<FPSO>

農機・小型原動機事業の組織再編による新会社発足

IHIのグループ会社である株式会社IHIシバウラ(ISM)と、株式会社IHIスター(STAR)の両社を統合し、10月1日付で統合新会社「株式会社IHIアグリテック」を設立しました。

芝草・芝生管理機器等を扱うISMと農業用機械を扱うSTARとを合併し、技術の融合及びリソースの集約を図ることにより、事業の収益力を強化します。また、ISMの走行技術とSTARの農業用作業機技術による市場ニーズに合わせたトラクタ用作業機、自走式作業機の新規開発など、より付加価値の高い製品を提供していきます。

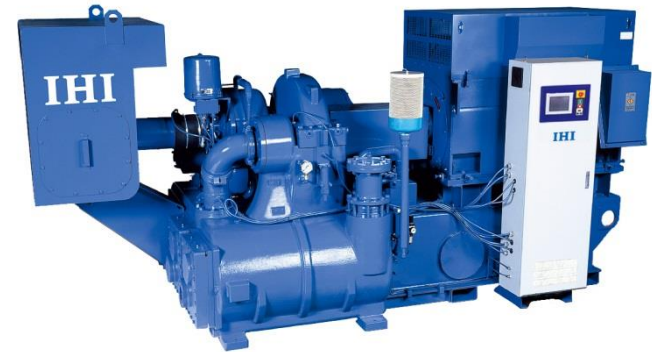


<乗用リール式芝刈り機>

回転機械事業統合新会社の発足について

IHIは、回転機械事業を会社分割によってグループ会社である株式会社IHI回転機械(ICM)に承継し、10月1日付で統合新会社「株式会社IHI回転機械エンジニアリング」を設立しました。

回転機械に関する経営資源をIHI回転機械エンジニアリングに統合・集約することにより、製品開発、営業からアフターサービスまで一貫した運営体制を構築するとともに、効率的な事業運営・人員配置を行ない、お客さまニーズに即したグローバルかつスピーディーな事業展開を図っていきます。

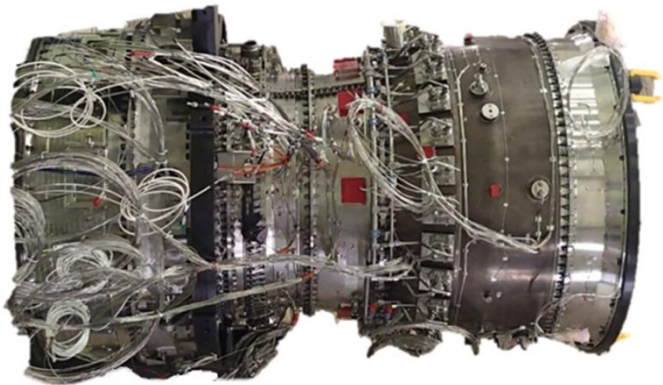


<汎用ターボ圧縮機>

将来の戦闘機用を目指したジェットエンジンの主要部分(コアエンジン)を納入

IHIは、将来の戦闘機用を目指した推力15トン級ジェットエンジンの主要部分を防衛装備庁に納入しました。納入したのは「コアエンジン」と呼ばれる、圧縮機、燃焼器、高圧タービンから構成される自立運転可能なユニットで、ジェットエンジンの性能を左右する重要な部分です。

IHIは、今後も防衛装備庁を万全の態勢でサポートし、この事業を通じて世界に誇る技術を発展・統合させ、戦闘機用エンジン開発の技術基盤の構築を図っていきます。



<コアエンジン>

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度			通期	'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	2,991	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,900

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17/2Q	
V2500	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,388	エアバス A319/320/321
GE90	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,553	ボーイング B777
CF34	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	4,971	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx						118	259	468	751	1,035	1,295	1,432	ボーイング B787/B747-8
PW1100G										16	148	288	エアバス A320Neo
Passport20												7	ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	16,639	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	通期
日 本	331	339	353	375	346	85	180	274	389	101	196	370
ア ジ ア	169	248	298	275	216	66	96	127	158	28	57	110
中 国	143	181	234	243	249	118	205	343	485	215	383	630
北 米	11	13	16	18	24	13	19	25	33	7	19	70
中 南 米	0	0	0	7	34	29	43	50	61	11	28	80
欧 州	437	432	602	756	743	160	322	471	617	327	492	790
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	1,616	474	868	1,293	1,746	691	1,179	2,050

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	通期
賃貸収入	95	92	91	93	101	23	46	70	93	23	46	92

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
17年度2Q	46	19	13	13

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

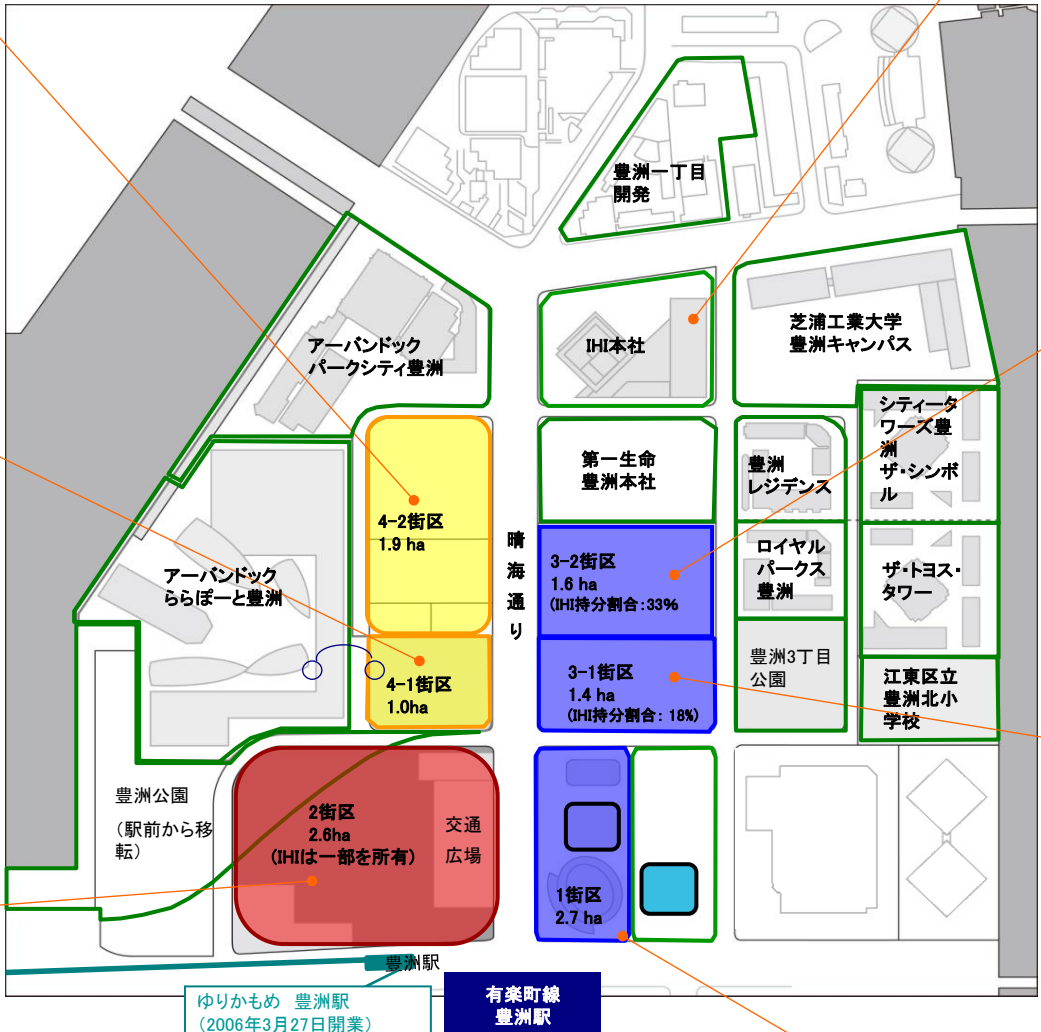
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業




複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定


豊洲IHIビル
地上25F, 高さ: 約125m, 延床面積: 97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所 (SPC))
地上16F, 高さ: 約75m, 延床面積: 101,503㎡
2014年7月竣工




豊洲フロント (IHI, 三菱地所 (SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ: 約75m, 延床面積: 106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ: 約165m, 延床面積: 100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ: 約150m, 延床面積: 105,448㎡
2006年8月竣工



シビックセンター棟: 2015年9月開業
消防署棟: 2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。